

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500088		
法人名	株式会社 大日向建築		
事業所名	グループホームかがやき・かがやき2号館		
所在地	秋田県にかほ市三森字午ノ浜126番地1		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が「安心・安全・快適」に過ごせるように、ご家族の方々にも安心と信頼を感じていただける施設を目指しています。入居者様ができることを維持することで日常生活が活性化せず笑顔で過ごせるよう楽しさと、張りのある生活の推進に努めています。また入居者様も高齢であり、今年は新型コロナウイルスの感染予防のため、外出が難しい状況の中で、個別の対応や施設内でのゲームや行事で楽しみのある生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建築会社社長である代表が、「今の自分があるのはこれまで出会ってきた先輩後輩のおかげ、お世話になった方たちのため役立ちたい」との思いからホーム開設に至った。ホームは秋田でも温暖な気候と豊かな海と山の幸で知られるにかほ市、国道7号から海側に少し入った静かな地域にある。平成22年開設から利用者の高齢化に従い一般浴室に加え中間浴の浴槽設備を増設するなど対応を行ってきた。新型コロナウイルス感染予防の為に透明アクリルのパーティションもいち早く会社で製作し設置した。利用者支援は一人ひとりの性格や個性を尊重し本人に心地よい接し方をそれぞれ工夫しており、職員が互いに協力し連携良く支援にあたっていた。食事は地元の新鮮な食材を用いホーム職員手作りの地域の家庭料理中心である。訪問当日も煮林檎のデザートが添えられていた。金浦産の美味しい魚が季節ごと供され心のこもった食事が魅力のホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の見えるところに掲示している。また、介護計画書にも「安心・安全・快適」に生活が送れるように目標を立てている。	理念は事務所やホールの見やすい場所に掲示、日頃からサービス担当者会議や申し送りでも確認し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは法人内の合同行事に参加して頂いたり、地域のサロンに出向き交流があったのですが、新型コロナウイルス感染予防の為ボランティア等の受け入れもお断りさせていただいている。	田圃を隔てて三つの集落からなる町内会にホームも入っており、町内行事や会社の合同行事(バーベキュー)等で交流をしてきた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	にかほ市の認知症キャラバン・メイト及び認知症サポーター連絡会の運営委員の一員として活動している。(管理者)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、自治会長、民生委員の方々の参加を得て開催しています。施設内の日常の活動報告をして助言を得たり、さらに良い支援に繋がるようにしている。	感染予防の為今年度は資料を送付し意見を伺う形での開催になったが、これまでは行政職員、自治会長、民生委員(3~4人)が常時参加し、広く意見を交換、助言を頂くなどサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、にかほ市長寿支援課の職員に参加していただき、生活保護を受給している方とは、福祉事務所との定期的な連絡を取っている。	平沢地区の地域包括職員や市の生活保護担当者、長寿支援課職員とは日頃から連絡を取り合い相談、助言をもらうなど協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、周辺的环境(海、国道等)近くにある為ご家族からの要望もあり、施錠している。	過去に外部講師による出前講座で事業所内研修を実施。現在は職員会議等で身体拘束の対象となる行為について正しい理解を得て身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルは職員がいつでも手に取って見れるように置いてあり、虐待防止の意識付けをしている。無理な制止や言葉使いで無意識での言葉の虐待がないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加している職員もいるため、家族の要望によっては情報提供等する等必要に応じた支援ができる。自立支援事業は実際に利用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と確認を行った上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付の意見箱を設置している。面会時や電話等に会話の中からご家族の思いや意向をくみ取り反映できるようにしている。	過去に職員のケアに関して、利用者や家族から意見があり、対応し改善した経緯があった。事業所に率直に要望を伝えられる関係を築き、事業所も意見を受けとめ運営に反映させる取り組みがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に出る意見は、リーダーから管理者へ報告。さらに必要に応じては管理者から代表者へ報告している。	日常的に職員はリーダー、管理者、代表に率直に意見を伝える環境にあり、シャワーチェアで浴そうに入る設備の導入など利用者を思う職員の要望で実現。勤務時間や休みの取り方でも職員の希望が反映されていることも確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にとっても安心、安全に働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の行事、レクリエーションを通して、認知症の方の対応や関わり、伝え方、楽しみ方を考え、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加を通じて意見交換、情報交換している。市の認知症キャラバン・メイト及び認知症サポーター連絡会でもネットワークが作られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけ、傾聴、話し合い等から信頼できる関係作りに努め、職員1人につき3～4人の担当を設け、入居者と個別でかかわり信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を決めるにあたり、家族や本人からの聞き取りを十分に行い安心して利用してもらえる様に説明し、不安・要望を確認している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おしぼり干し、洗濯たたみ、塗り絵、工作等、その方の「できる事」に応じて、日常生活の必要な事は行ってもらおうようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に一度の「かがやき通信」で生活の様子を写真付きで伝えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、入居者の趣味や習慣等を継続できるようにしている。(細かい作業・通い続けた美容院等)	新型コロナウイルス感染予防の外出制限の下、馴染みの床屋との関係が途切れぬようホームへ出張依頼をした。家族や友人との面会も制限しているため、携帯電話のビデオ通話やパソコンのリモート通話も検討しているとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話やコミュニケーションが取れるような座席の配置と、みんなで楽しむ体操やゲームをする機会を多くして楽しめるようにしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やその他で退去となる場合、その後の在宅支援や施設移動時の、相談等行いスムーズに生活できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり中での言動や行動、毎月のモニタリング、評価を行い生きがいのある生活が送れるよう気持ちを受け入れるようにしている。	家族や周囲から本人の生活歴や得意な事の情報もらい、入浴時など利用者がリラックスして話ができる時間に本人の思いを聴き取り、利用者一人ひとりが望む快適な時間を提供できるよう職員皆で取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前ケアマネからの情報と、本人との会話の中や関わりから必要な情報を得るようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌、各チェック表、記録や個人のケア記録を通して現状の把握を行う。また申し送りノートも活用している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を決め、代表者で意見を出し合い一人ひとりの現状に即した介護計画を作成している。	居室担当者が評価を記入した記録をもとにサービス担当者会議で管理者、リーダー、ケアマネジャー、看護師、職員が情報共有し話し合いながら介護計画を作っている。詳細な記録のある実際の会議録で確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を元に入居者の現状を話し合い、情報を共有して対応している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の床屋さんを利用したり、玄関先に出てひなたぼっこをしたりすることがいい気晴らしになっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時以外は、基本ご家族が受診対応となっている。他、往診対応もしている。	家族の付き添いで入居前から利用の医療機関に通院の他、ホームではかかりつけ医院への通院支援を行っている。薬局は薬の一包化や薬袋の印字など個々の要望にも応じてくれ協力関係にある。また会社は介護タクシー事業も行っており、通院時に付き添う家族も助かっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の訪問あり、嘱託医への報告等スムーズに行われている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に伴い、必要な情報提供を行っている。また病棟担当者や病院担当者へ連絡し情報を得て家族との相談に乗れるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当する方はいないが、今後そのような状況になった時の対応についてご家族と十分に説明してその状況に合わせて対応していきたい。	過去に看取りを行った事例がある。家族・本人の意向に添い重度化した利用者に医療機関と連携し対応してきている。対応が困難な場合は家族とも十分な話し合いのうえ方向を定めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は行えていないが、救命講習もほとんどの職員が受講している。今度も受講を考えていきたい。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署立ち合いの元行われている。火災発生場所によって避難経路を変えて訓練している。	年2回消防署員立ち合いの避難訓練を実施、隣接する会社は日中であれば避難誘導の協力が得られる。夜間は同町内居住の管理者が駆けつけ可能。災害時の備蓄は3日以上あり、緊急連絡網の伝達訓練や発電機操作訓練もしている。代表が建築会社を営んでいることも災害時の復旧等において何かと心強い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性や性格を理解した声かけや話題に配慮している。個々のプライド、プライバシーに配慮しその人らしい、尊厳を大切にしたい対応をしている。	利用者一人ひとりの個性や性格を職員全員が理解し、言葉遣いや接し方は本人がより尊重されていると感じられる対応に努めている。訪問当日も声かけの仕方がその人その人に合わせ工夫されていることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの意思を表現できない入居者が多い為、声かけや日常生活の中でも思いをくみ取るようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその時の行動や状態等に合わせた対応を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りはさりげない声かけとその他の整容についても細かく対応している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材やメニュー、一人一人に合わせた食事形態で食べることの楽しみや喜びを感じてもらっている。	食事は、地元の新鮮な季節の食材(魚や野菜)をホーム職員が料理し提供している。利用者が昔から愛した土地の家庭料理が中心、手間を惜しまず手作りすることを大切にしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分の摂取量を把握し促している。体重の増減や排泄状態に合わせて食事量等個別で対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行いチェック表にてチェックしている。義歯の清潔保持も状態に合わせて必要な支援を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して適時に誘導し自力排泄を促している。また、日中と夜間との対応も区別し、不快にならずにゆっくり休めるように対応している。	利用者個々の性格や行動パターンを理解し排泄誘導や声かけを行っている。何度もトイレに行こうとする方には、歩行も運動と考え都度付き添い介助している。時間がかかっても急かすことなく付き添う方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の定期的な服薬、調整を行い状況に合わせて個々で対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週2回と計画されているが、拒否されたり、その時の本人の意向も聞きながら実施している。炭酸泉を使った足浴も週2～3回行っている。	入浴は本人の希望やタイミングに合わせ柔軟に対応している。一般浴室の他にシャワーチェアのまま浴槽につかれる中間浴の浴室も新設し利用者の要望に応じている。炭酸泉を使った足浴も好評で健康上の効果もみられるとのこと。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が自由に休息をとることが出来る。リビングや、ソファで居眠りされていることもよくある。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも服薬状態を確認できるよう、個人のファイルから明細が見られるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活の中で好きな事、好む事、楽しみ等を把握し気分転換に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は外へ出ることが出来ず、施設内での楽しみを見つけている。(塗り絵、パズル、風船バレー、ボール転がし等)	コロナ感染症流行以前は道の駅や近くのショッピングモールへの買い物、ドライブ外出ができていた。利用者の高齢化で散歩も年々難しくなっているが、近くの桜や花壇の花を見に出る等している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の消耗品の購入については、ご家族様に説明、了解を得て預り金で対応している。預り金は金庫で保管し、管理者が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をしたいと申し出があった場合は、状況を見て対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるような季節に合わせた壁画や、花を飾る、温度調整等に配慮している。	天窓からの採光、風の通る大きな窓、ホールや廊下もたっぷりと広さがあり清潔で開放的な空間が快適である。利用者の手芸作品やホームの花壇の花を飾るなど室内装飾がなされている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや、広い廊下等、それぞれが思い思いに過ごす場所がある。1人で過ごしたり、テレビを観たり、それぞれの時間を過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベットが備え付けあり、ベット以外の家具は全て持ち込んでもらっている。自分の作品を飾って居室内を好きなようにレイアウトしている。	各居室に介護ベッド(電動ギャッジベッド)が備えられている。テレビや筆筒など利用者持ち込みの家具や家電もあり、また室内の設えや装飾は家族とも相談の上で居心地良く過ごせるような配慮がなされている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等必要な場所には全て手すりが設置されている。居室の入り口や、トイレ入り口もわかりやすい表示をしている。		